

2013 年 12 月 22 日 「世界指導者前進大会でのお母様のみ言」 真のお母様

今日は、訓読のみ言と真のお母様のみ言を掲載いたします。

<訓読のみ言>

『天聖經』

第七篇 地上生活と霊界 第四章 再臨復活と神霊の役事

第一節 末世と再臨復活

10 今から、数千億の霊人たちが、地上を占領するために攻略を仕掛けてきます。ノイローゼ現象がその一つです。さらには、2000 年代を超えると、その時は悪霊に通じ、善霊に通じたりなどして、すべて霊的に通じるかもしれません。戦争をするなどと言っても闘わざるを得ません。そのような時が来るかもしれません。それを防備することが「統一原理」の使命です。

高いアンテナにはピッピッと音が出てきます。それがノイローゼ現象です。最も恐ろしいのは、悪霊だけを動員して地上を攻略してくることです。そのような場合に、どうするのかが、問題です。いくら人が地上にいっぱいになったとしても、悪霊に攻略されてしまいます。それで、神様はそこまで準備していらっしゃいます。善霊たちを中心として霊界の基台を広げてきているのです。

霊人の再臨復活

11 皆さんが地上で自分が備えるべきものをすべて備えることができず、サタンにそっくりそのまま心を奪われた立場で霊界に行けば、実体の行動をどのように展開させることができるでしょうか。それは、非常に難しいのです。もし皆さんが、この地で責任を果たせないときは、皆さんの子孫を代わりに立てなければなりません。自分を救ってくれるメシヤのような立場にその子孫を立て、彼らを助け、彼らの事情を見ていきながら協助してあげなければなりません。彼らをして、皆さんが生きている時にできなかった責任分担を成し遂げることができるよう協助しなければならぬ立場に置かれるのです。これが再臨復活の現象です。

12 本来の人間は、サタンの支配を受けず、神様の直接主管圏内で暮らさなければならないのですが、墮落することによって墮落圏に暮らすようになったので、そこから抜け出すためには、個人として蕩滅し、家庭として蕩滅しなければなりません。これを蕩滅せずには、抜け出すことができません。

霊人は、必ずその時代ごとに再臨現象を経て現れるので、それぞれの段階が輪廻、すなわち生まれ変わる現象として見えるのです。皆さんも同様です。皆さんが個人的にただ信じて死ぬようになれば、家庭をもてなかったのが、家庭基準、氏族基準、民族基準、国家基準、世界基準といった段階をすべて越えていかなければなりません。ですから、何億万年かかるかもしれないのです。それは無限に相当します。

13 イエス様が死を通して、天と地の前に望みのすべてを実在的に証したことを、私たちはよく知っています。最後の十字架の途上で、「もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」（マタイによる福音書 26 章 39 節）と祈ったイエス様は、その心に死の恐怖が襲えば襲うほど、望みの日が近づいてくることを、誰よりも感じていたのです。肉身の死が過ぎたのちには、新たな望みの世界が展開することを感じ、その世界を憧憬したというのです。肉身の死以後に永遠の自由の体で復活することを願ってそれを憧憬したので、死んだのちに復活の栄光を受けることができました。

14 先生に中心の根、中心の幹、中心の芽が連結されています。それを個人的に、家庭的に主流にして、中心の枝、中心の根、中心の幹、中心の芽が一貫した流れになっています。生きているというのです。再臨復活をしたのです。枝として再臨主に連結すれば、すべて生きようになります。こうすることによって、アダム家庭から世界基準まで、一度に復活した立場に立つというのです。数万年の間に繁殖したものを数年間で接ぎ木して完成させるので、地上の個人天国から家庭天国、天上天国まで、一度にすべて完成することができるのです。

＜世界指導者前進大会での真のお母様のみ言＞

今日、私たちは歴史的で、前にも後にもない 2013 年、基元節から始まったこの一年を締めくくりながら、新しく始まる 2014 年、新しい時代を新しい希望とともに迎えられるように準備をしています。

ところが、私たちの周辺で起きていることに対し寒心に堪えません。なぜ、人類歴史はこのような困難をもって展開するのでしょうか。悠久なる歴史を通して、良心作用によって善を追求してきましたが、今日の世界は、人種、宗教、思想、領土、国境、防衛等の諸問題を抱え、想像もできなかった複雑な時代に処しています。

しかし、私たちは黙ってとどまっていることはできません。創造主であられる天の父母様（神様）が、休むことなく摂理歴史をなしてこられたことをよく知っています。問題は、人間が原理軌道から脱線したために、自ら本然の軌道に戻ることができる蕩滅復帰歴史が必要でした。それは人間自らでは解決できない難問題でした。

キリスト教においては、メシヤ思想が私たちの最終的な期待です。では、メシヤはどのようなお方ですか。メシヤは、間違った人間の全てを新しくしてくださる方です。それゆえ、メシヤは『真の父母』として来なければなりません。墮落に陥った人間を、もう一度生んでくださらなければならないということです。このような過程なしに複雑な人類歴史が收拾される望みはありません。しかし、驚き、感謝すべきことに、この地上に真の父母様が顕現されました！

ここにお集まりくださった貴賓と平和大使の皆さんが、一線で責任を果たしてくださらなければならないでしょう。なぜなら天の摂理は待つてはくれないからです。時があるので

す。この時に合わせて、真の子女、孝子の立場に立つべき重要な時点に置かれています。

文総裁は、建学理念として『愛天・愛人・愛国』の教訓をもって教育してこられました。そうです。たとえ深い摂理歴史は分からなかったとしても、天を敬い、人間、民を愛する心によって国に忠誠を果たすようになります。

この国に責任をもつ為政者の皆さんは、自分の利益を中心として考えるよりも、どのようにしたら国を愛し、民を愛することができるのかと少し考えてくださればと思います。このような点で、平和大使の皆さんが創設してくださった（自然災害を防ぎ、家庭倫理の確立を図る）平和軍と平和警察の使命は重要です。全世界で平和大使たちが先頭に立って平和世界に向かう道に案内しなければなりません。考えてみてください。周辺の国々に、天を愛し、民を愛し、国を愛する心があったならば、欲心を満たすようになりますか。

私たちは北東アジアの情勢を憂慮しています。一度、このように考えたらどうでしょうか。イザヤ書第 2 章 4 節には、槍や剣を溶かして鋤や鎌を作るようになる時に平和世界が成されるという一節があります。

私たちは最近、中国から飛んでくる黄砂と微細塵（微小粒子状物質）によって健康を脅かされています。聖書に書かれているように、軍事費として浪費している天文学的なお金の 3 分の 1 を投入して、砂漠化、焦土化しているその地に植樹運動、沃土化運動を行うならばどうなるでしょうか。中国の人が生きていく道を見つけるでしょうし、国は富んで強くなるでしょう。

それなのに、なぜ破壊力を持つ軍事にとてつもないお金を使う必要があるのでしょうか。このような運動を通してアジアの国々が、『愛天・愛人・愛国』の心情で一つになるならば、世界平和はアジアから世界へと間違いなく伝播されていくでしょう。

統一家の祝福家庭と平和大使たちは、真の家庭運動、純潔運動を展開し、世界の青少年問題や家庭破綻、犯罪の全てを防ぐことができる実質的な運動の先頭に立って真実を明かしていかなければなりません。真実とは、天が待ち焦がれ、私たちが願った『真の父母』のことです。

世界の全ての国々は、兄弟の国として真の父母様を迎える位置に立たずして一つの世界となることはできません。父母の前に子女たちが互いにために生き、愛し合う兄弟のような心情文化を成してこそ、世界平和が可能です。このような人生を生きてから行くべき所が永遠の世界、天上天国となるのです。

私たちの肉身による生活は長くても 100 年くらいでしょう。地上生活は、創造主であられる本来の主人、天の父母様の所有物をお借りして生きているのが現実です。私たちは所有権を主張できないということです。借りている立場であり、よく使用しながら生き、天が願う姿で天の前にお返ししてこそ、あの世で永遠の自由と平和と幸福を享受できることを実感できればと思います。

そのような生涯を生きるために、私たちはどのようにしなければなりません。立ち上がらなければなりません。走って出ていかなければなりません。飛んでいくことができるなら、

そのほうがもっと良いのです。

私たちに残された時間は多くありません。私たちが地上で天のみ旨を成してさしあげ、天の父母様に『ありがとう』、『誇らしい私の息子であり、娘だな…』とおっしゃっていただけるようにならなければなりません。天の願いであり、人類の望みを成してさしあげるその日のために、みな一緒に力強く勇進しましょう。(KMS より転載)